

樹木/樹林/大木シンボルツリー

■ 保存樹木制度

地上1.5mの高さの幹周りが1.3m以上・樹高10m以上などの条件を満たしている樹木に対して、助成金を交付しています。

また、市が倒木による被害の保険に加入し、保護育成に努めています。

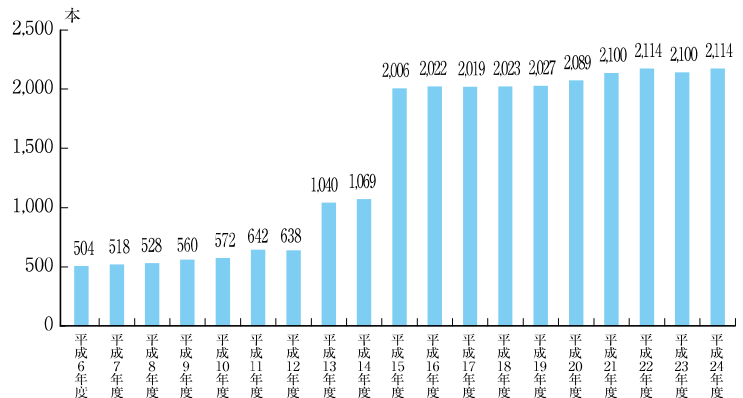
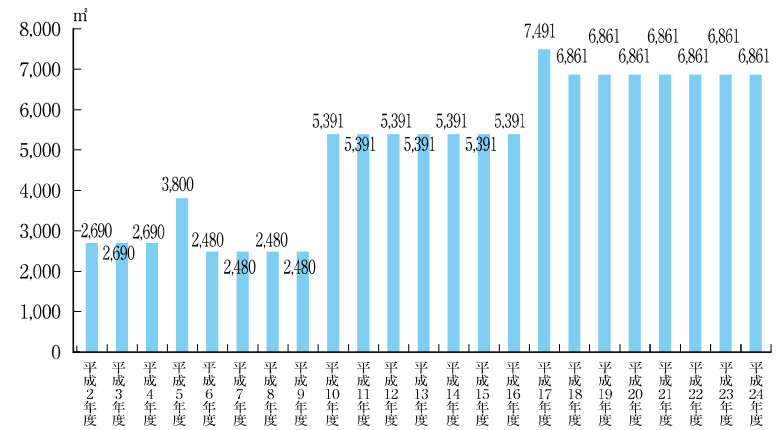
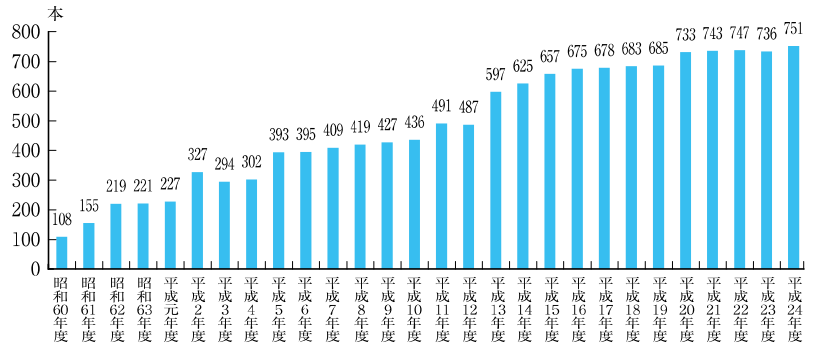
■ 保存樹林制度

貴重な樹林地を保存するための制度で、樹木の集団の面積が300㎡以上などの条件を満たすと、市から助成金が交付されます。

また、市が倒木による被害の保険に加入し、保護育成に努めています。

■ 大木・シンボルツリー2000計画

武蔵野に生活する人々の過去・現在・未来をつなぐシンボルとして、かつての緑豊かな武蔵野市を蘇らせようという事業が『大木・シンボルツリー2000計画』です。保存樹木とシンボルツリー（公共施設の敷地内にある樹木）をあわせて2000本の大木を残そうと平成6(1994)年から始まりました。現在ある大木や、大木になりそうな樹木だけでなく、まちのシンボルとして後世に残せるような植栽を進め、22世紀には大木が空をおおう…そんな未来の武蔵野市の姿を目指しています。



はなしのタネ

このキャラクターは平成6年に始まった「大木・シンボルツリー2000計画」を市民の方へ広めるために市民からシンボルマークを募集しその最優秀作品をシンボライズしたものです。

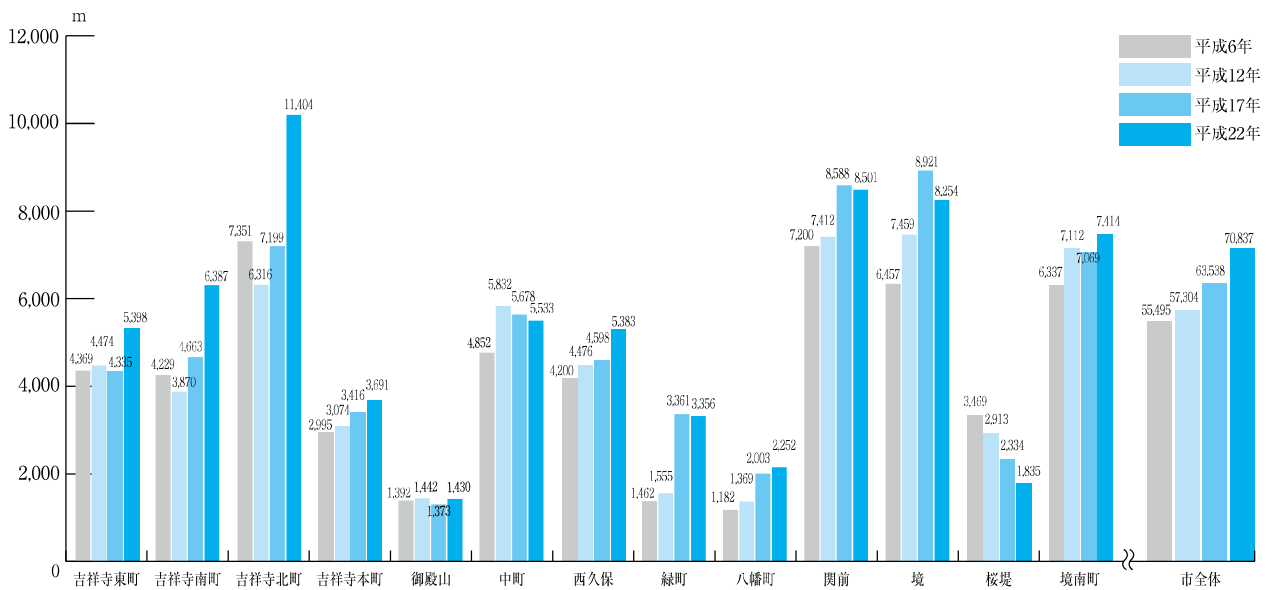
西暦2000年代に2,000本の大木をシンボルツリー等に指定し保存しようという計画は、2003年末に当初の目標2,000本を達成しましたが、現在も大木を守り育てる活動は続いており、このキャラクターも市内の街路樹や公園の木々の樹名板などに使用されています。



接道部緑化

■ 接道部緑化の現状と推移

市内全域の概ね道路幅員4.0m以上の道路に面する、延長3.0m以上、高さ0.6m以上の緑化（生垣・植込み・ツタ類混合緑化など）

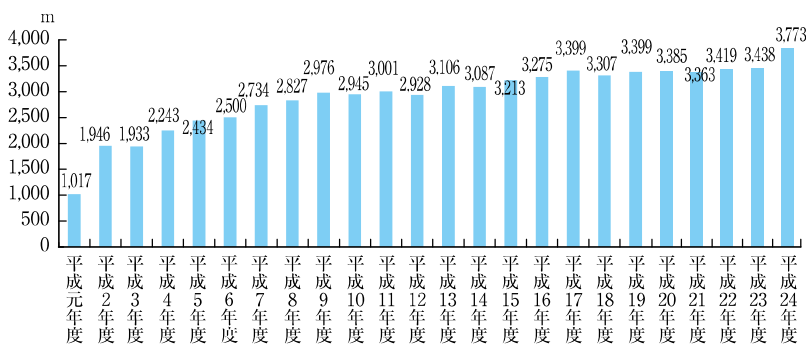


■ 保存生垣制度

指定を受けるには、以下のすべての条件を満たしている必要があります。

- 幅4.0m以上の道路に接していること
- 道路から目視できる奥行き5m以内の範囲で、生垣の長さが5m以上、高さ0.6m以上あること
- 新設してから3年以上経過していること

■ 保存生垣指定状況推移



身近なみどりを創出する制度

■ 接道部緑化助成制度

助成の対象となる「接道部緑化」は、幅員4.0m以上の道路に接して、道路から目視できる奥行き5m以内の範囲で、樹木または芝などの地被植物を長さが延長3m以上植えることです。

緑視率（目に映る緑の量）の増加に貢献することを狙いとした制度であるため、道路境界に設置されたブロック塀等を撤去して内側の緑地を見えるようにしたり、新たに植栽をして接道部緑化がなされた時、ブロック塀等撤去費用も助成の対象となる場合があります。

昭和60年に「武蔵野市みどりの保護育成と緑化推進に関する条例」が制定され、生垣の新設を対象に助成を開始しましたが、その後、平成8年に生垣以外の樹木・地被類等の植栽も対象とするなど、時代に合った制度の充実を図ってきました。

助成制度開始から平成24年までの総助成額は約7,000万円で、この制度により増加した接道部緑化は下記のとおりです。

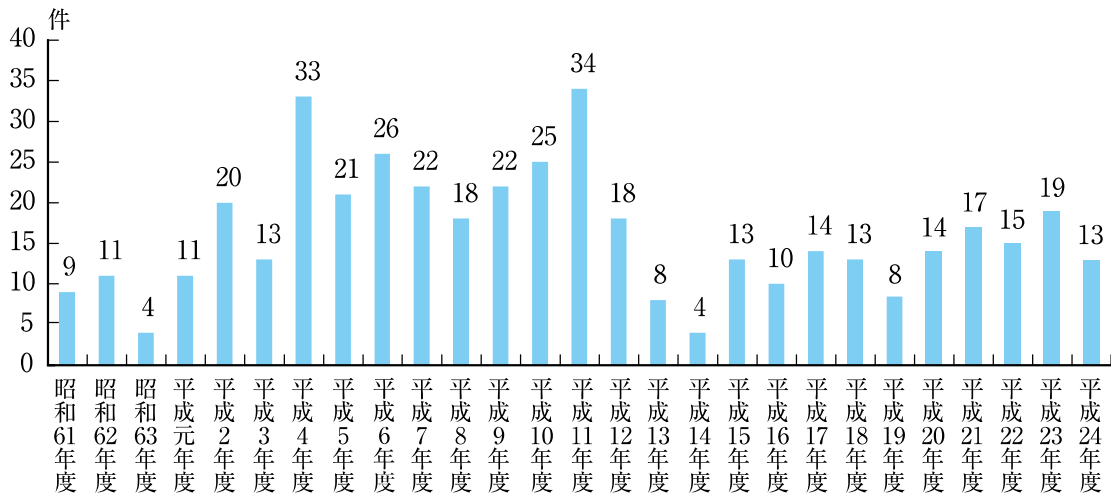
《平成24年度までの累計》

対 象	総 数
生 垣	5,099m
高 木	320本
中 木	942本
低 木	5,754株
地 被 類	375㎡
ブロック塀等撤去	1,843㎡

▼ブロック塀から接道部緑化への事例



■ 接道部緑化助成状況の推移





■ ビオトープの経緯

武蔵野市では、緑と水のネットワーク形成と身近な自然の回復・保全を図るため、ビオトープ整備事業を展開しています。平成6年度には関前公園、平成9年度には木の花小路公園、平成13年度には桜堤公園、平成14年度にはグリーンパーク緑地、平成16年度にはむさしの自然観察園、平成18年度には農業ふれあい公園でビオトープ施設を作りました。平成10年から7年の間で、市内全ての小学校に学校ビオトープを設置し、自然環境教育の場として活用しています。

また、平成10年に仙川水辺環境整備基本計画【仙川リメイク】を策定し、平成25年度までに自然生態系復活ゾーンの約90%の整備を行い、身近な自然環境の確保に努めています。

■ むさしの自然観察園(平成17年7月24日開園)

むさしの自然観察園は、身近な自然の回復を行う市内の拠点として、自然に関心のある人が自然環境について学ぶ場として平成17年に開園し、NPO法人「武蔵野自然塾」に維持管理を委託しています。

月2～3回程度、自然体験イベントを行っています。



▲むさしの自然観察園

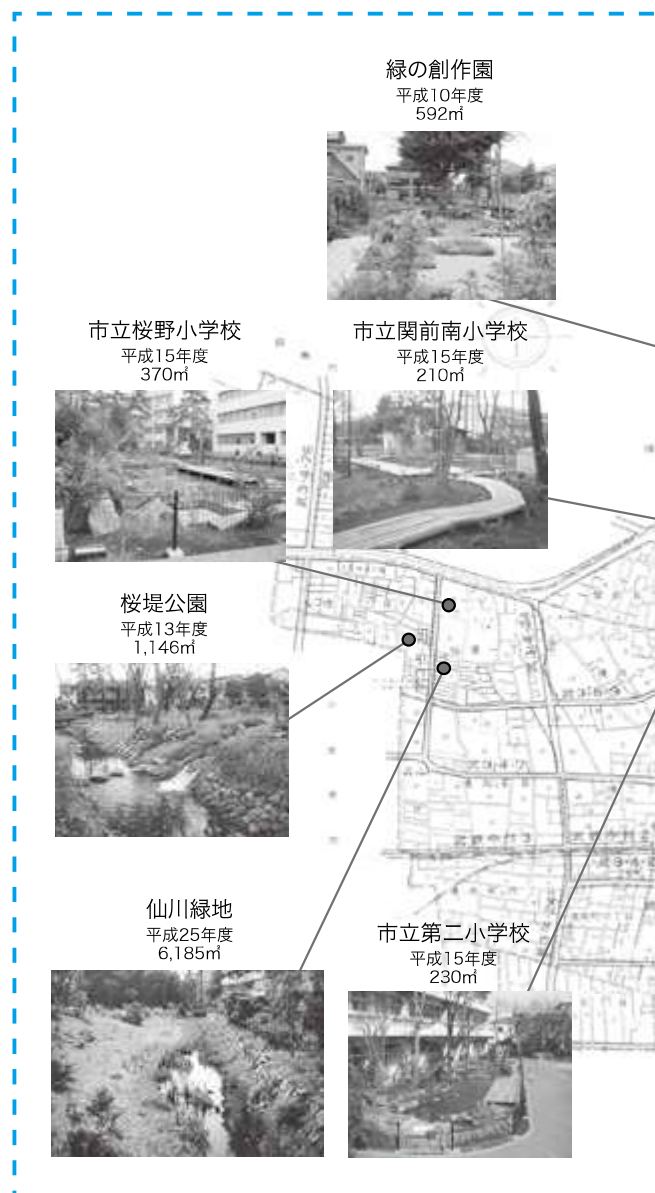
年 度	来園者数	イベント参加者数
17	2,071	301
18	2,678	809
19	2,972	1,031
20	2,787	855
21	2,677	911
22	2,497	864
23	2,353	959
24	2,496	1,067

■ 学校ビオトープ

平成16年度より、各小学校のビオトープにおいて出前授業を開き、学校での自然環境学習を推進しています。

また、ビオトープの維持管理作業も学校と連携して行っています。

年 度	出張教室回数	維持管理作業回数
16	27	11
17	76	21
18	41	37
19	43	26
20	34	40
21	54	37
22	51	53
23	49	51
24	50	48



緑の創作園
平成10年度
592㎡



市立桜野小学校
平成15年度
370㎡



市立関前南小学校
平成15年度
210㎡



桜堤公園
平成13年度
1,146㎡



仙川緑地
平成25年度
6,185㎡



市立第二小学校
平成15年度
230㎡





■ 関前公園かいぼり

子ども達に身近に自然とふれあう機会を与えること、また、関前公園トンボ池の生物の繁殖状況を観察するために平成8年度から夏休みの時期に年一回のかいぼり（観察会）がはじまりました。専門家の指導のもと、トンボ池の生物を調査するだけでなく、ヘドロの除去や水草の整理、ならびに本来「トンボ池」に生息していない（トンボにとって有害になる）生物の除去にも貢献しています。



みどり編

市立千川小学校
自然体験園
平成10・11年度
1,600㎡



市立第五小学校
平成12年度
400㎡



木の花小路公園
平成9年度
707㎡



むさしの自然観察園
北町ビオトープ
平成16年度
1,460㎡



市立第四小学校
平成14年度
320㎡



市立大野田小学校
平成17年度
400㎡



市立第一小学校
平成15年度
200㎡



市立境南小学校
平成12年度
570㎡



関前公園
平成5年度
4,122㎡



市立井之頭小学校
平成14年度
200㎡



市立第三小学校
平成13年度
300㎡



市立本宿小学校
平成13年度
250㎡



■ 市民の花(9種)



ハギ(まめ科)

日本の山や野原にあり、昔から秋の七草にあげられています。

秋になると、紅むらさき色の花が咲きます。



ムラサキハナナ(あぶらな科)

武蔵野では、庭や公園などでもよく育ちます。

3～5月にふじ色の花をつけ、そのきれんさは、広く市民に愛されています。



ジンチョウゲ(じんちょうげ科)

高さ1.5メートルぐらいの木で、庭や公園に植えられています。

春に小さな10～20個のむらさき色の花が咲き、とてもよい香りがします。



フヨウ(あおい科)

日なたを好み、庭や公園などに植えられています。

花は夏から秋にかけて咲き、色は、白やうすべに色です。



キク(きく科)

日本や中国に見られ、東洋の花といわれています。たくさんの市民のかたが育てています。

花は10～11月に咲きます。



ムラサキ(むらさき科)

昔から武蔵野の名草とされてきました。花は白色で小さく、6～7月に咲きます。

根をつかってむらさき色をだすことができます。残念なことに、武蔵野市では、見られなくなってしまいました。



ツツジ(つつじ科)

ツツジの仲間は、日本にもっとも多くあり、市内のグリーンベルトにもツツジがたくさんあります。

4～5月に、白や赤などの花が咲きます。



スイセン(ひがばな科)

秋に植える球根のなかで、もっともつくりやすく、お日様があたり、水がたくさんあれば、とても大きくなります。

花は2～4月ごろ咲きます。



アサガオ(ひるがお科)

くきは、左まきで竹などにからんでのび、3メートル以上にもなります。

花は、7月から咲きはじめ、朝、ひらきます。

■ 市民の木(3種)



ケヤキ(にれ科)

江戸時代、武蔵野に住みついた人たちが、風よけのために植えました。

高くなる木で、春や秋に美しい木です。



コブシ(もくれん科)

昔から、武蔵野にはえている木です。

春にほかの花木に先がけて咲く白い花は、私たちに春のよるこびと希望をあたえてくれます。



ハナミズキ(みずき科)

アメリカのワシントン市から東京へおこられたものが、井の頭公園に植えられ、広まりました。

春の花、秋の紅葉ともに美しい木です。